10周年記念
「ゲストスピーチ」

「アジアの世紀―グローバリゼーションの次の段階―」

Adrian S. Cristobal Jr.
東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）
理事会議長

「我々は、アジアの世紀に生きている」とも言われる。

この3年間で中国の存在感がさらに増す中、アメリカはアグレッシブな姿勢を強め、欧州では多くの問題が起きているため、アジアとそのリーダーたちに世界の注目が集まっている。

まず、アジアは成長しており、それがなぜなのかを理解することが重要である。次に、アジアの成長が世界にとってどのような意味があるのか、また、より健康で豊かな社会をつくっていくために、アジアの成長のチャンスをどのように活かせるかということを考えることも重要である。

アジアの経済成長は、主要なマクロ経済の指標を見れば明らかである。例えば、世界の実質GDPやミドルクラスの消費者数における地域シェアは、欧州や北米の割合が減り続けている一方、アジアの割合がトップになっており、今後も伸びていくと見られている。また、識字率等の社会的な指標も、アジアは伸びている。

物とサービスの貿易も顕著な成長を見せており、特にアジア地域内での貿易が増えている。また、海外直接投資が伸びる中で、地域内の直接投資が増加している。アジア地域内での人の流れも活発になっている。

持続的な発展にとって重要な要素である知識や技術革新でも伸びており、知識による収入をグローバルに得ている。

輸送と物流でも、アジアは製品輸送と国際旅行の重要なハブとなりつつある。

影響力を示す指標である文化でも、出版や娯楽等の分野で世界的なシェアを広げているほか、地域内の文化の往来が増えている。

このように、アジアでは、物・資本・人・知識・域内輸送が成長し、統合が進んでおり、これらの動きやネットワークは、グローバル化を再定義している。

アジアは、保護主義や孤立主義に傾きつつある世界に対する解毒剤として、地域化という答えを出している。アジアは経済的、文化的に非常に多様でありながらも、相互補完的であり、工業化、技術革新、文化と流動性において、非常に大きなハブやネットワークをつくっている。

今回の会合のテーマでもある観光分野では、中国で多くの人々が海外旅行に行くようになり、今後さらなる伸びが期待される。日本は観光地として人気があり、大きな可能性があると言える。また、タイの医療ツーリズムや韓国の美容観光等、観光分野におけるニッチなマーケットも出現している。

アジアの統合は、工業化、技術革新、文化と流動性という3つの面で、大きなネットワークを生み出している。多くの地域でグローバル化の後退が見られるが、アジアは地域化というグローバル化の次の段階に差し掛かっていると思う。

この段階では、政治家等は組織的な協力関係を強化し、信頼できる仕組みを構築することにより、紛争や課題を解決していくことが重要である。また、アジア各国の相互補完的な特徴を利用することで相乗効果を考えることや、通商・資本・文化の拡大を強化することで地域内の人の流れを強化することも重要となる。

この東アジア地方政府会合も、地域間の連携強化に寄与するものになると考える。連携強化はさらなる連携を生み、様々な問題解決に貢献するとともに、人々の相互理解を促進し、経済やビジネスを超えたかけがえのないものとなっていくだろう。